

2025年度 文化学園大学大学院入学試験問題 2期  
被服学専攻(博士前期課程)

服装社会・文化論

受験番号				氏名	

1

「アイデンティティ」という用語について簡単に定義し、具体例を一つ挙げながら、ファッションとの関連で考えられることを自由に述べなさい。

【模範解答】

「アイデンティティ」とは、自己と他者との境界を定める際に用いる複数の社会的役割を統御する主体だと定義する。しかし、それは不動の本質ではなく、他者とのコミュニケーションの中で、特定の役割を演じ、承認されることで事後的に立ち現れるものだと言える。

こうした定義のもとで、ファッションはコミュニケーションにおける社会的役割を他者に視覚的に示すツールとなる。具体例として「リクルートスーツ」を挙げてみよう。ベーシックなスーツは、自らを労働市場に適応可能な主体へと書き換え、それをメッセージとして伝える役割を果たす。また、親しい友人と食事会をする場合は、気の置けない装いで参加し、距離の近さを明示する。こうした場面ごとの自己呈示を束ねる主体こそがアイデンティティであり、それは他者との差異の中で確定するのである。

結論として、ファッションとの関連で現れるアイデンティティとは、単なる自己表現ではなく、衣服という記号を用いて他者との差異を制御し、コミュニケーションを成立させるための、遂行的な主体だといえる。

2

SNSの時代における「有名性」の社会的機能について、具体的な例を一つ挙げながら、説明しなさい。

【模範解答】

「有名性」とは、能力の多寡に関わらず、広く知られているという状態自体が人々を動かす力となる権力の一種である。現代のSNSは「いいね」等の記号で支持を可視化する装置を実装し、古典的な芸能空間の外側に、発信力と動員力を備えた「インフルエンサー」を生み出した。

例えば、HIKAKINという人物は、ボイスパーカッションの能力を有していたが、スーパーマーケットの店員として働きながら、動画投稿を始めた。彼の動画は徐々にフォロワー数を増やし、人々に見られ、評価のボタンを押されることで、もともとの能力であるビートボックスとしての枠を超えて、人気を博するようになった。彼は、コロナ禍や能登地震の際に寄付の呼びかけを行い、既存の組織力に頼らず、個人の呼びかけのみで、多くの寄付を集めることに成功した。いわばボトムアップ型の社会的動員の力が、彼の有名性によって実現したのである。

このように、SNSにおける有名性の社会的機能は、数値で記された支持の力において、ボトムアップ型の自律的な影響力として作用しているといえる。

**【出題意図】**

論文を書くにあたって、形式的なフォーマットにしたがって表現することは最重要である。そのため、問題文の指示に従った形式が取られているかどうかを採点している。次に、自分の用いる言葉を定義して使うことは学問的態度として必要である。したがって、用語を定義し、その定義にしたがって、具体例と関連付け、説明しようとしているかどうかを採点している。最後に、論文は自分の考えを根拠とともに記し、議論を経て、練り上げていく必要がある。議論を喚起するためにも、意見は明確であることが望ましい。そうした部分が態度として見られるかどうかを採点している。

その上で、内容面についてのオリジナリティを判定し、総合的な思考力と構想力の強度を判断している。

**【採点基準】**

- ・問題文の指示にしたがって、解答の論述の構成が行われている（具体例を用いて説明しようとしている、など）。
- ・学術用語を把握し、それらを定義して用いている（問題文に指示がなくても）。
- ・ファッション社会学が関わる対象との関連が明確に示されている。
- ・自分の考えが明確に述べられている。
- ・論述内容のオリジナリティ。
- ・誤字脱字や文法的誤りは1点ずつ減点する。